

〔技術のページ〕

自然の中でのびのびと育て「おかやま黒豚」

岡山県総合畜産センター

環境家畜部 中小家畜科

1 はじめに

皆さんは、「おかやま黒豚」を食べたことがありますか？

肉は歯ごたえがあり、繊維が細くやわらかで、特有の風味を持つ大変美味しい豚肉です。

岡山県が、黒豚（バークシャー種）の飼養を始めたのは、30年程前に鹿児島県から雄1頭と雌2頭を県試験場へ導入したのがきっかけです。

その後、平成8年から3年間にわたり、原産国のイギリスより優良な種豚を導入し、その血統を維持しつつ、国内の優良な種豚場からも毎年数頭のペースで導入しています。

そして、導入した優良な繁殖豚を改良・増殖しながら、生産者に種子豚（繁殖用育成豚）及び人工授精用の液状精液を供給することで「おかやま黒豚」の生産振興を図っています。

そこで今回は、当センターで飼養する「おかやま黒豚」の供給体制やその能力の一部をご紹介します。

2 おかやま黒豚の繁殖能力は？

現在、当センターには、黒豚の種雄豚が9頭、繁殖用母豚が30頭います。

表1に、飼養する繁殖用母豚の繁殖成績を示しました。一般的に黒豚の平均産子数は、8～9頭と言われていいますので、平均よりやや良い成績を維持しています。

生産者の収益性の向上を図るためには、肉質の向上だけでなく、繁殖成績の向上も重要な要素となります。

そこで、生産者の経営コストの一層の削減を図るため、産子数が多く、繁殖性に優れた「おかやま黒豚」を供給するよう、日々改良を重ねています。

表1 母豚繁殖能力

年	平均産子数	平均離乳頭数	離乳時1頭当たり体重
H18	9.5頭	7.7頭	6.41kg
H19	9.4頭	6.8頭	6.70kg
H20	9.3頭	7.1頭	6.32kg

注) 産子数は死産含む。離乳は、分娩後21～27日の間に実施。



おいしそうに乳を飲む子豚

3 病気に負けない豚づくり

分娩された子豚は、60日齢までは、育成豚舎において家保等の関係機関の指導に基づいたワクチンプログラムにより、徹底した疾病予防管理を行っています。

その後、4～5ヶ月齢から農家に届けるまで、広々とした放飼場でしっかりと運動をさせて、足腰の強い繁殖用豚として育成しています。当然のことながら、育成中や供給する際は、駆虫薬による消化管内寄生虫の駆除を行い、供給には万全を期しています。



広い運動場で走り回る育成豚

4 種子豚等の供給

種子豚として供給する候補豚は、年間約 500 頭分娩される子豚から生時体重や 60 日齢での発育や体型・資質等を中心に選抜を行い、年間約 50 頭の雄と、雌約 120 頭を育成しています。

さらに 6 ヶ月齢ぐらいで、パークシャー種登録審査基準等を参考としながら、雌は特に乳頭の形状等に注意をし、最終選抜を行い、高い能力の種子豚の供給に努めています。

種子豚の出荷実績は、表 2 のとおりで、年々供給頭数は増えています。

表 2 種子豚の出荷実績

(単位：頭)

	H17	H18	H19	H20
雄	9	8	12	9
雌	64	68	73	79
合計	73	76	85	88

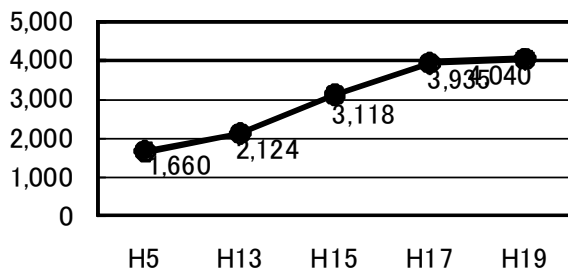
5 「おかやま黒豚」の産地

種子豚は、県内の黒豚生産農家 7 戸に注文頭数に応じて供給しており、年間約 4,000 頭が肉豚として出荷されています。

本県の黒豚出荷頭数の推移は、図 1 のとおりで、年々頭数は増えていますが、現在肉豚は、年間約 65,000 頭出荷されており、黒豚は 6 % を占めるに過ぎません。

今後も生産農家に優秀な種子豚を安定供給し、「おかやま黒豚」の一層の生産拡大に努めていきたいと考えております。

図 1 県内の黒豚出荷頭数の推移



6 おわりに

当センターでは、肉質だけではなく、優れた繁殖性を兼ね備えた「おかやま黒豚」を今後も改良・増産し、生産者に安定的に供給していくことで生産拡大に努め、より多くの消費者の方々に美味しさを堪能して頂きたいと考えています。



「おかやま黒豚」の母豚



「晴れの国」で育った安心・安全な「おかやま黒豚」を食べてね！